

# 経済学部開設 50 周年記念論集によせて

経済学部長 金 栄 緑

本学経済学部は 1967 年 4 月に開設され早 50 周年を迎えました。開設を記念する『熊本商科大学経済学部開設記念論文集』が 1969 年発刊され、その後 10 周年ごとの節目の年に『現代経済学の諸問題』（1978 年）、『現代経済学の諸問題Ⅱ』（1988 年）、『経済学部開設 30 周年記念論文集』（2000 年）が発刊されました。学部開設 40 周年の年には、『いま、学問がおもしろい、サテライト講義「21 講」』と題する書物が 2008 年出版されました。今回は、紀要『経済論集』の記念号として学部開設 50 周年の記念論集を発刊することになりました。

1969 年発刊した学部開設記念論文集の題字は、当時の鰐淵健之学長の揮毫、長野敏一経済学部長は序文のなかで、アポロ 8 号の月旅行の逸話を紹介しています。かつての記念論文集の題字が揮毫であったり、巻頭言の挨拶のなかに月周回のトピックスが入っていることを思えば、このデジタル全盛期の今日に至るあいだに時代は格段に大きく変革を遂げています。

このような時代の変化に対して経済学部は、世界経済が国際経済に深化していくなか、1990 年「国際経済学科」を設置、また、ゲーム理論や契約の理論で代表される法と経済学を背景にした「リーガルエコノミクス学科」を 2006 年設置するなど社会のニーズに応じてきました。バブル経済の崩壊から始まった日本経済の停滞、少子高齢化社会の到来、グローバル経済化など時代の流れのなか、進化する経済学部を掲げた 2015 年の学部再編では、3 専攻制の経済学科と法学を補強したリーガルエコノミクス学科の 2 学科制を取り入れ専門性を深めてきました。

経済学部は、設立当初から学問体系を堅持しながら時代の変化に対応してきた歴史と伝統があったと思います。1978 年発刊の学部開設 10 周年記念論集の序文に当時の菅知彦学部長は、“大学の価値を尺度するものは、私達の研究と育成した学生達であり、とりあえずすぐ、学界に開陳できるものは前者である。”と述べ、大学のアイデンティティーは研究と教育にあるということを明確に提示しました。

大学を取り巻く厳しい環境という言葉が流行語のように使われている今日、大学に対する様々な要請や要望が飛び交うなか、大学のアイデンティティーもまた問われています。今こそ研究機関としての大学という原点に戻って考える時期であるかもしれません。但し、「研究」と「教育」に併せて「社会貢献」も求められている時代です。しかし、それは、まったく新しいことではなく、研究の成果を社会に返す、学生に還元することの延長にあると考えていま

す。研究者であり大学教員である私達は、研究のために教育を犠牲にしてはいけなく、地域社会への貢献を置き去りにしてはならないことで襟を正す必要があると思います。

経済学部開設 50 周年の行事は、蒲島郁夫県知事による学部開設記念特別講演会（2017 年 10 月 13 日開催）と主に沿革や学部の史料で構成された記念冊子、それからこの記念論集の刊行です。学部開設 50 周年記念論集の発刊につきましては、多数の力作を寄稿してくださった先生方に感謝申し上げます。経済学部はこれから 60 周年、100 周年と歴史と伝統を重ねて行くことを確信しています。

最後に、学部 50 周年という節目の年に学部長を務めること、記念論集の巻頭言を書くというのは、私にとって身に余る光栄なことであり、なにより先生方のご支援に心より御礼申し上げます。